

日本CLIL教育学会(J-CLIL)第2回大会  
2019年7月13日(土)

# 作文からのアイデアの抽出と 協働での概念視覚化の取り組み

東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院

佐藤 礼子

sato.r.ae@m.titech.ac.jp

本発表資料では、WEB公開のため、  
教材、学生が映っている写真、学生の制作物の写真を  
削除しております

# はじめに

- 留学生が作文を書くとき、  
日本語に加えて内容や構成を向上させることが課題
- 内容や構成の面を自分で推敲するのは難しい。

- 作文を書く(個人作業)



4C(Contents, language, cognition, community)を統合したクラス活動



個人に気づきを還元

# 日本語科目の中で実践

【講義のねらい(シラバスより)】

授業のテーマは、日本語を使って、「情報や意見を他者に説明する力」と「**答えのない問題**に取り組む知力」を身につけるよう取り組むことです。

そのために、次の内容を授業で行います。

## 世界の貧困問題

- ①トピックに関する読み物を読んだり、視聴覚教材を視聴したりして世界の現状を知る。
- ②分かりやすく説明する(書く+話す)。
- ③ディスカッションポイントを見つけて、他の学生と議論する。
- ④身近なところから社会を変える方法を考える。

# 授業参加者

日本語学習者（外国人留学生） 13名

⇒出身（中国6、韓国3、東南アジア3、南米1）

- ・ 学部1年生
- ・ 週1回90分、固定メンバーで日本語授業を受講している。・ 本実践は10月に実施。
- ・ 日本語能力に差あり（JLPT N2～N1程度）
  - 語彙力（漢字）や読解力：◎中国・韓国の学生
  - 内容（世界の現状や貧困問題）：◎東南アジアや南米の学生

## 分析対象

作文・ポスター・  
記述（感想や気づき）

# 実践の流れ（1回90分）

- 1回目：導入：世界について知る
- （宿題）作文を書く：「わたしの考える貧困とは」
- 2回目前半：作文を分析する
  - ・付箋紙への書き出し
- 2回目後半～3回目前半：ポスター作成
  - ・グループで付箋紙を持ち寄って内容紹介
  - ・分類
  - ・ポスター化
- 3回目後半：ポスター発表

ポスター写真

# 活動のねらい

4C

内容

言語

思考

LOTS

HOTS

協学

## 0) 導入

- 概念を知る

内容

言語

思考

協学

## 1) 作文を書く

- 自分の考えを日本語(書き言葉)でまとめ

内容

言語

## 2) 作文の分析と概念抽出

- 2-1 自分の考えたことを分析する
- 2-2 付箋紙にアイデアを書き出す

内容

思考

内容

言語

思考

## 3) グループでポスターを作る

- 3-1 他の学生の考えを知る、  
新しい言葉や概念を獲得する
- 3-2 概念を分類、比較、整理、分析する
- 3-3 論理的に組み立てる、ラベルをつける
- 3-4 概念理解を精緻化する

内容

言語

協学

内容

思考

協学

内容

思考

協学

内容

思考

協学

## 4) ポスター発表する

- 説明する、他者と考えを共有する

内容

言語

協学

# (0) 導入：世界の現状を知る①

内容

言語

思考

協学



教材写真

学習者が分担で読み聞かせ  
(本を見せながら、分担して読み上げ  
一人あたり見開き2ページずつを担当)



「世界がもし100人の村だったら」

## ①聞き取り

- |   |                      |
|---|----------------------|
| ① 世界の人口: 約(63)億人=100人                               | ④ 異性愛者と同性愛者: 50 50   |
| ② 男女: 52男 48女                                       | ⑤ 有色人種と白人: 30 30     |
| ③ 子どもと大人: 30大人 30子<br>いつ何なり                         |                      |
| ⑥ アジア・アフリカ・南北アメリカ・ヨーロッパ・南太平洋: 61 13 13 12 1         |                      |
| ⑦ キリスト教・イスラム教・ヒンドウ教・仏教・自然・その他無宗教: 33 19 13 6 6 24   |                      |
| ⑧ 中国語・英語・ヒンドウ語・スペイン語・ロシア語・アラビア語・その他: 19 9 8 6 7 4 半 |                      |
| ⑨ 栄養不足・病気・犯罪: 20 1 15                               | ⑩ きれいな水が飲める: 17 飲めない |
| ⑪ 富の配分: 31 → 30%<br>20 → 2%                         | ⑫ 銀行に預金がある: 8        |
| ⑬ エネルギーの配分: 20 → 90%<br>60 → 20%                    | ⑭ 大文字・文字が読めない: 1 14  |
| ⑮ 食べ物と住む場所がある: 75                                   | ⑯ 人口増加 1 2           |

## ③グループで数字を答え合わせ

## ②感想を書く

Q この村の中で、自分はどんな村人だと思いますか。  
教育の面が見れば、がっかり教派に入る。それ以外には、100人の中で、1人生活を送ることが出来る。

## ④グループで感想を共有

Q この話を読んで思ったことは何ですか。  
私は想像が非常に豊か。

Qこの話を読んで思ったことはなんですか。

世界の現状に気づいた

M) 大学教育を受けた人は意外と少なかった。

本来少なくとも100人にうち10人がいるかなと思う。不公平貧富の格差が激しい

J) 大学教育を受けるのは普通だと思ったが、1/100の確率だなので、とても驚いた。

B) この話を読んでから、思ったよりも良い生活をしていて、困難する人が多いとわかった。

E) 不幸な人はあまりに多い。

自分が恵まれていることに気づいた

C) 世界全体の状況は**普段の私の認識とは違います**。自分は幸せだと思います。

D) **幸せなのに幸せを知らない**のははぢかしいことだ。もっとポジティブになりたい。

G) 私が考えたより貧困な人が多くて、**自分は本当に豊かな生活をすごしている**ことを思いました。

L) 私は**想像より非常に恵まれている**。

Qこの話を読んで思ったことはなんですか。

運が良かった

- A) 私は今まで人生が大変だと思うがこの話を聞いたら、  
自分は運が良い方だと分かって、運の悪い人を助けてあげたい。
- K) 人は運で決まることが多い。
- I) まだかみさまに感謝しています。

資料の内容への反発

- F) 人の幸せをかってに決めないでほしい
- H) 他の人々が不幸だから満足せよってのはあまりよくないと思う。(人の幸せは相対的剥奪感で決まるという意見は中々説得力あるけど。。。)

## (0) 導入：世界の現状を知る②

内容

言語

思考

協学

世界の貧困の現状をハンガーマップ(飢餓地図)を見て考える



## (1) 作文を書く

内容

言語

「私の考える貧困とは」(宿題)

# 活動のねらい

## 0) 導入

- 概念を知る

内容

言語

思考

協学

## 1) 作文を書く

- 自分の考えを日本語(書き言葉)でまとめ

内容

言語

## 2) 作文の分析と概念抽出

- 2-1 自分の考えたことを分析する
- 2-2 付箋紙にアイデアを書き出す

内容

思考

内容

言語

思考

## 3) グループでポスターを作る

- 3-1 他の学生の考えを知る、  
新しい言葉や概念を獲得する
- 3-2 概念を分類、比較、整理、分析する
- 3-3 論理的に組み立てる、ラベルをつける
- 3-4 概念理解を精緻化する

内容

言語

協学

内容

思考

協学

内容

思考

協学

内容

思考

協学

## 4) ポスター発表する

- 説明する、他者と考えを共有する

内容

言語

協学

## (2) 作文の分析と概念抽出 (自分の考えたことを分析する)

自分の作文から、下の4種類に当てはまる内容を付箋紙に書き出す

貧困の  
現状

貧困の  
原因

貧困の  
解決策

解決策の  
問題点

1枚の付箋紙に一つの内容を書く

・戸惑っている学生には、まず、該当しそうな部分に下線を引くようにアドバイス

なんで貧困は生まれただろう。もちろん色々理由はあるけど、私は教育と国のシステムにあると考える。まず、高い学歴イコール高収入とはいえない。だが、一般的にはある程度教育を受けた人にはその人さえ努力すればその学歴に比例する給料がもらえる。またその高学歴同士の中に生まれた子友達はまた親を学んでいい教育を受けられる。

逆に、中国にいる何億の農民のように彼らには金銭的にも時間的にもあまり余裕がない。その中で生まれた子友達は親の手伝いをしなければ家計が成り立たないわけだ。常に何を勉強するかよりは何を食って生きられるかを考えるしかない。結局、何の教育も受けなかったその子たちがもらえる仕事は農業など力仕事の他にほぼない。それで貧困も世襲されるわけだ。

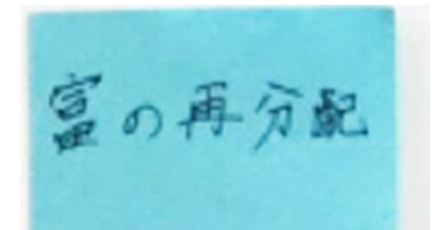
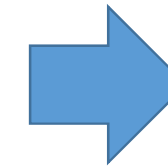
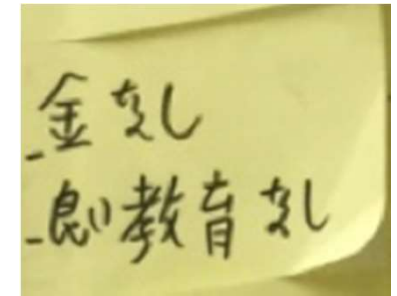
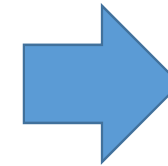
その貧困をなくす義務を持っていて、大きな役割を果たすのが国である。格差というのはそのまま放置したら絶対なくなる。むしろどんどん広がるだろう。そのとき大きな力を発揮できるのが大きな権力を持っているのが国家機関である。貧しい人にはできるだけ低い税金を徴収して金持ちには高い徴収して社会富の再分配を公平公正に行うべきだ。

貧困の  
原因

貧困の  
現状

貧困の  
解決策

解決策  
の  
問題点



## 貧困の 現状

飢餓

栄養失調  
(8億人以上)

犯罪

## 貧困の 原因

内戦

教育不足

資本主義根

## 貧困の 解決策

食品援助

食べ物を  
捨てない。

教育支援

## 解決策の 問題点

環境  
問題

資金

自国の文化が  
発展できない



他の学生と付箋紙を見せ合った時の気づき

私のは、ピンクと黄色ばかりで、青や緑がないです。

私は、ピンクばかりです。

〇〇さんは難しい言葉を使っています。

4色全部あった！

わたしは、作文はたくさん書いているのに、(付箋紙は)あまりないです。

その漢字は読めません。

あ、中国の漢字(簡体字)だ。

# 活動のねらい

## 0) 導入

- 概念を知る

内容

言語

思考

協学

## 1) 作文を書く

- 自分の考えを日本語(書き言葉)でまとめ

内容

言語

## 2) 作文の分析と概念抽出

- 2-1 自分の考えたことを分析する
- 2-2 付箋紙にアイデアを書き出す

内容

思考

内容

言語

思考

## 3) グループでポスターを作る

- 3-1 他の学生の考えを知る、  
新しい言葉や概念を獲得する
- 3-2 概念を分類、比較、整理、分析する
- 3-3 論理的に組み立てる、ラベルをつける
- 3-4 概念理解を精緻化する

内容

言語

協学

内容

思考

協学

内容

思考

協学

内容

思考

協学

## 4) ポスター発表する

- 説明する、他者と考えを共有する

内容

言語

協学

ポスター写真

### (3) グループで ポスターを作る

貧困の  
原因

貧困の  
現状

貧困の  
解決策

解決策の  
問題点

ポスター写真

## (3) グループでポスターを作る

### 3-1 グループで付箋紙を持ち寄り、見比べる

→ 他の学生の考えを知る、新しい言葉や概念を獲得する

LOTS(低次思考力)

### 3-2 付箋紙を分類したり、並べ替えたりする

→ 概念を分類、比較、整理、分析する

LOTS(低次思考力)

### 3-3 論理的に組み立てる、ラベルをつける

→ 論理的思考、創造的思考

HOTS(高次思考力)

概念理解を精緻化する

HOTS(高次思考力)

貧困の  
原因

貧困の  
現状

貧困の  
解決策

解決策  
の  
問題点

ポスター写真

- 付箋紙を持ち寄ることが、自分のアイデアを説明する機会となった。
- アイデアはすでにそろっているので、スムーズに内容の分析や分類に集中することができた。
- 内容のかたまりを線で囲む  
概念をまとめることばを書きこむ  
概念間の関係を示す線や矢印を書き込ませる  
→内容の視覚化と概念化を促した。

## (4) ポスター発表

写真

(ポスター発表をして)貧困についての考え方で変わった点、気づいた点について書いてください。

内容

言語

思考

協学

## 内容への気づき

F) 貧困には絶対的貧困と相対的貧困があって、その解決策も違うということを分かった。

K) 時代遅りの価値観から生まれた貧困もある。だから啓蒙も必要だ。ほかに、絶対的な貧困と相対的な貧困を分けて考えることが必要かもしれない。

E) 貧困が起こる原因の根本は資源の希少性だとは前に気づいてなかった。限りある資源は限りのない人口に満足させることができない。さらに、資源配分の不公平により、貧困の現象がますますきびしくなってきた。だから科学技術の研究を選らんで、利用できる資源を増やすことは一番大切だと思う。

M) 私が作文を書いたとき「天然資源」と教育の差が貧困を起こした原因だとしか考えられませんでした。国の政策についてまったく考えませんでした。同じ国においてもお金持ちの人とすごく貧困の人が両方いるのは国の政策を関係してあるでしょう。格差をなくす根本的な方法はやはり国の政策にあると思います。「天然資源の分配」はすでに変えることができないからです

作文への気づき

A) 貧困の最も根本的な原因は資源の希少性、つまり世界の資源には限りがあるとかんがえたが。グループのポスター作成後資源のない国に必ず貧困の人が多いたとは限らないことが分かる。教育や努力を通して、資源不足のある国も豊かになることができる。

ポスター化作業への気づき



(ポスター発表をして) 貧困についての考え方で変わった点、気づいた点について書いてください。

## 内容への気づき

### わからなさ、難しさへの気づき

B) 貧困の原因は思ったよりも多い。様々な視点で貧困が起こり、あり続ける理由が考えられる。また解決しようとしてもなかなか難しく、新たな問題に導いてしまうことがよくある。

H) 貧困は無くならないはず。(比率の調整はある程度可能)(どんな手を使っても) 貧困の深淵は無限だ。

(ポスター発表をして) 貧困についての考え方で変わった点、気づいた点について書いてください。

内容

言語

思考

協学

## 思考面での気づき

J) ①貧困の**原因**は運、自然と人力三つに分けられること。②啓蒙という**貧困に対しての解決策**が存在すること。価値観と生活習慣は貧困に関係があることは考えたことがなかった。

I) 気づいたてんは**最近貧困に対するたいさくを行わっても、また新しい問題になっちゃった**。例えば、びんぼうを助けるために新しい税金の配分システムを紹介して、けっきょくお金持ちが不満足になっちゃた。けっきょく、**いんがんけいの**こともきちんと考える必要がある。

## 作文への気づき

C) **作文の中で書いた原因や問題がたくさんありますが、原因と問題点はなかなかつながらなくて、ロジックではないです**。ポスターを造ると**原因と問題点まだ解決策はすべて必要なので、もっと全面的に考えました**。

## ポスター化作業への気づき

L) あるのだが、そんなに変わらなかった。**調べる時、考えた点をあまり多くなかったポスター作成の後にもっと広く、見なかったことも気付いた**。例としては、貧困が無法化にも導くことである。

内容

言語

思考

協学

(ポスター発表をして) 貧困についての考え方で変わった点、気づいた点について書いてください。

## 協学面での気づき

D) やはり三人の意見を合わせるとこでまとまった文章になった。内容の面でももっと豊富になったし、もっと広い方面から貧困の原因を考えるようになった。

G) 自分は金や政策にはまって考え続けたんですけど、人口とか汚染とか貿易など私の考えでは出なかったことがありました。この授業ではいろいろな国の人がいるので各々自分の国に映って考えているのでおどろくことが多いでした。

# 考察：作文とCLILの4Cを取り入れた活動

## <言語>

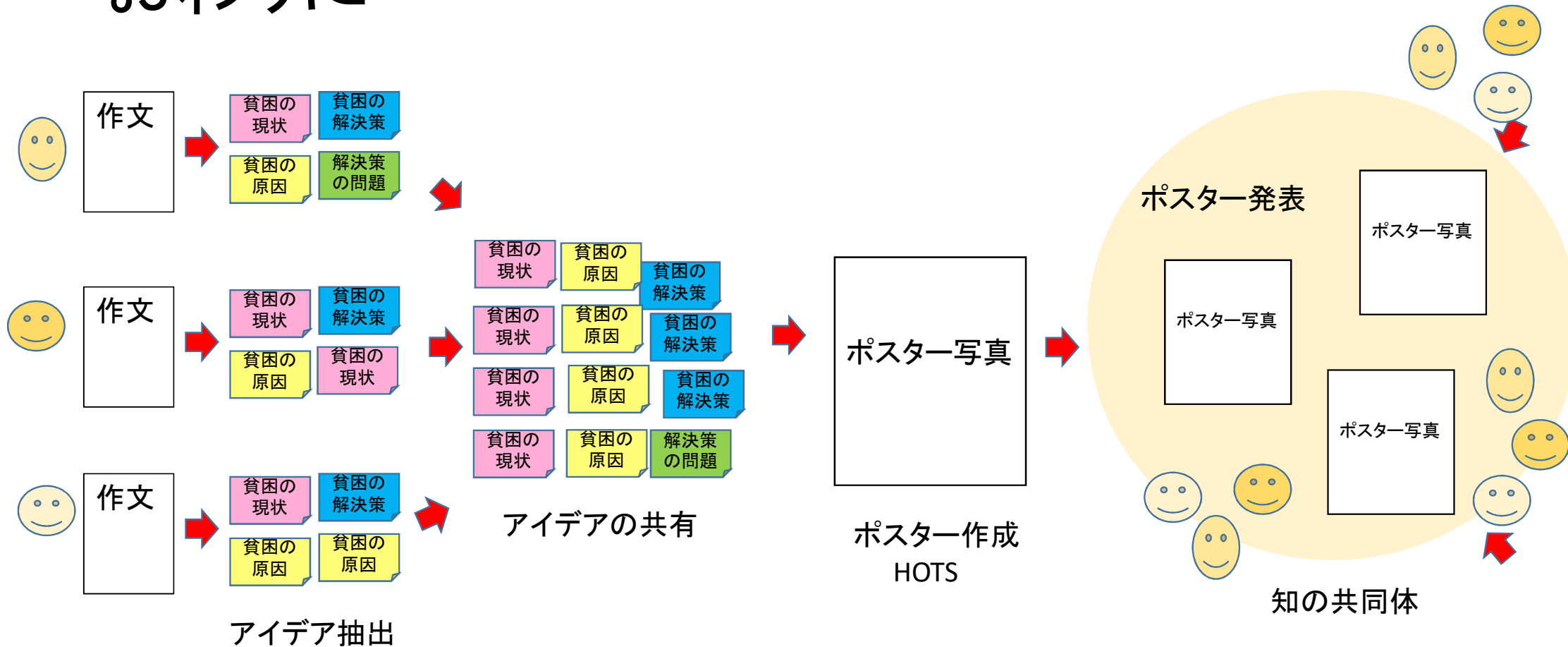
作文の日本語は修正しなかったが、付箋紙に書き出す過程で学習者が自分で修正を加えたり、教師がアドバイスしたりした。ポスター作成のプロセスで新しい語や表現を学ぶ機会となった。

## <内容・構成>

目の前に4色の付箋紙が並ぶことで、自分の作文の内容が何にフォーカスして書いてあったか、足りない点は何であったかを自分で振り返る機会となった

→3ヶ月後にもう一度同じテーマで作文を書かせた

# おわりに



# おわりに

## <問題意識>

- ・日本語に加えて内容や構成を向上させることが課題
- ・内容や構成の面を自分で推敲するのは難しい。

## <実践>

作文を書く(個人作業)



CLILの4C(Contents, language, cognition, community)を統合したクラス活動

## <結果>

- ・内容理解の深まり、わからないことへの気づき
- ・言語と思考の統合がアカデミックスキル向上につながる
- ・言語面(本発表では未紹介、2回目の作文で内容・言語・構成が高まった)

# 参考文献

- 和泉伸一(2016)『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業』アルク
- 奥野由紀子・小林明子・佐藤礼子・渡部倫子 (2018)『日本語教師のためのCLIL入門』凡人社
- 村野井仁 (2015)「CLIL的要素を持った第二言語指導の効果」『第26回 第二言語習得研究会全国大会予稿集』 pp.77-81.
- 渡部良典・池田真・和泉伸一 (2011)『CLIL 内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たな挑戦 第1巻 原理と方法』上智大学出版.
- Coyle, D., Hood, P, & Marsh, D. (2010). CLIL: Content and language integrated learning. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- Puffera, C. D., & Nikula, T. (2014). Content and language integrated learning, *The Language Learning Journal*, vol.42, No.2, 117-122.

ご清聴ありがとうございました。

佐藤礼子    sato.r.ae@m.titech.ac.jp